

2 基本方針に基づく重点施策

1) 滞在型観光の推進

宿泊施設の確保

年間1万人以上が宿泊する「ゆ華」を引き続き宿泊施設として運営し、観光客の受け皿づくりを行うことで滞在型観光の推進を図る。

(市内宿泊業者と競合しない経営方針)

観光誘客の推進

「ゆ華」の立地条件や施設内容(温泉、プール、コテージ)を活かし、富裕層や女性層、外国人観光客の増加を図る。

市内観光施設等との連携

市内観光施設、文化施設、スポーツ施設との連携により滞在型イベントの充実やコンベンションの誘致など交流の促進を図る。

2) 観光情報発信の強化

観光案内の充実

宿泊施設の強み(年中無休)を活かし、観光案内・宿泊案内等サービスの充実を図る。

観光情報等の発信

観光パンフ、観光案内板の設置、公衆無線ラン等により、イベントや観光情報等の発信を強化する。

3) 世界農業遺産など地域資源を活用した周辺の活性化

道の駅構想の推進

能登半島（世界農業遺産）の玄関口という立地を活かし、千里浜インター周辺に「のと里山海道」から市内に観光客を誘導するための観光交流拠点施設（道の駅構想）を県との連携により整備し、観光交流の推進及び地域の活性化を図る。

具体的な内容については、平成 26 年度において、検討委員会を設置し協議する。
財源については、社会資本整備交付金や有利な地方債（過疎債等）を活用する。

【基本コンセプト】

宿泊施設、温泉施設の活用
能登半島のポータル機能
（世界農業遺産などの情報発信）
羽咋オリジナル資源の活用
（自然栽培、砂像など）
地域団体等との連携
（特産品の販売等）

宿泊（ゆ華）

休憩（温泉、トイレ・
駐車場）

情報発信

（観光・道路情報・
世界農業遺産）

地域資源

（自然栽培、砂像）

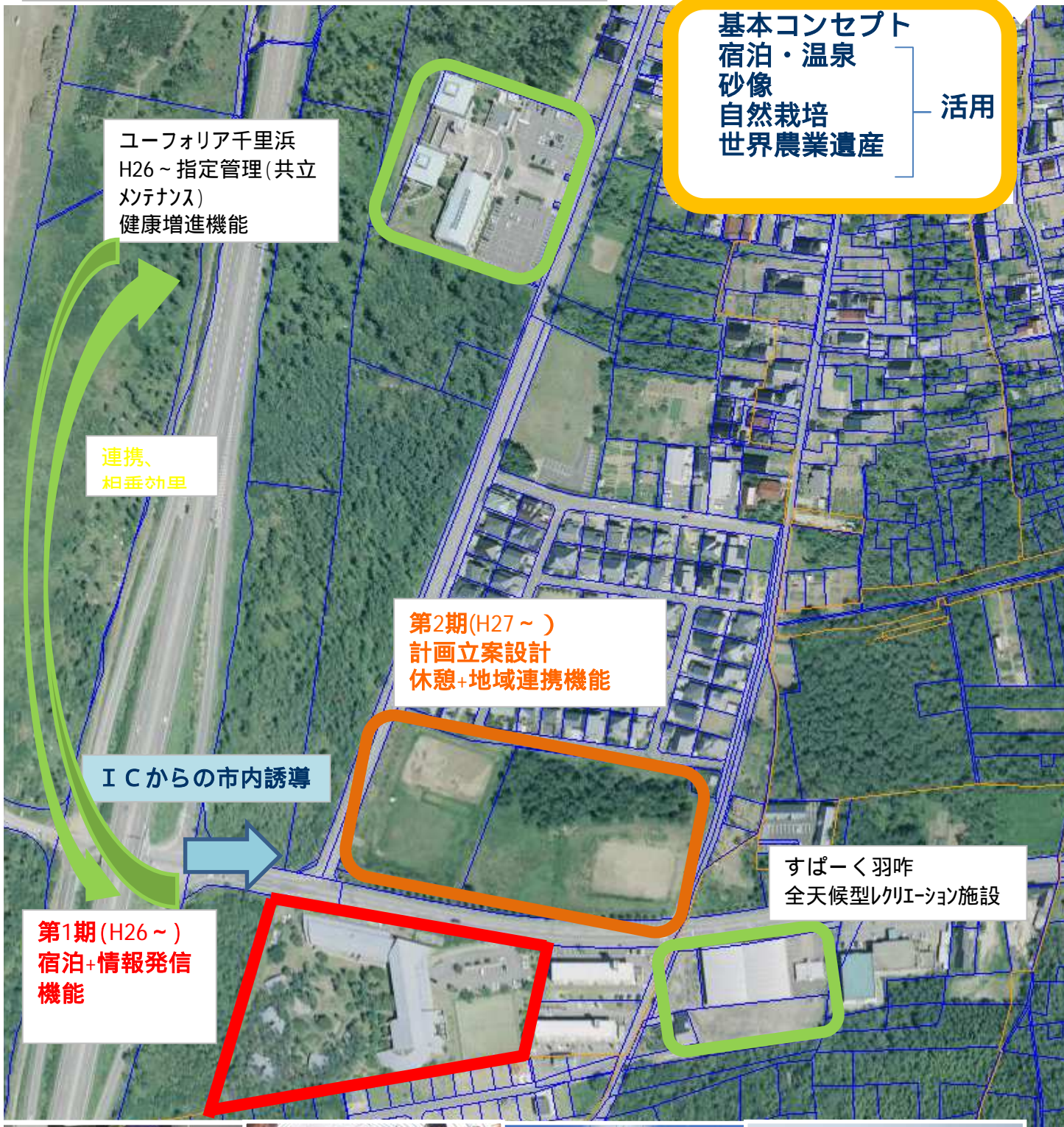
地域連携

（特産品等販売）

周辺施設との連携

千里浜海岸、松林等の自然やユーフォリア千里浜等の周辺施設との相乗効果を図り、周辺の魅力づくりを進める。

千里浜インター周辺整備計画 概要図



世界農業遺産(自然栽培塾)

のと里山海道 通行量 1.6倍
 北陸新幹線 年間往復 1,800万席
 平成24年 市内宿泊者数 6.7万人 うちゆ華1万人